
もう一人の英雄

千

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

もう一人の英雄

【Nコード】

N0820BA

【作者名】

千

【あらすじ】

主人公の黒鉄爽児はある日遊戯王GXの世界に転生する。そこで様々な仲間と出会い、遊城十代とともに後に英雄と語り継がれる決闘者に成長していく。初投稿です。文才0の駄作者ですがよろしく願います

VSクロノス（前書き）

はじめまして千です

記念すべき第一話はクロノス教諭との決闘

それではお楽しみ下さい

V S クロノス

「爽快〜早く寝なさい〜」

1階からおふくろの声が聞こえてくる。

特にすることもないので明日に備えて寝るとするか。

やあ俺は黒鉄爽児くろがねそつじ、転生者だ。

まあ神様（笑）のミスで死んでお詫びとして転生させてもらったっ
ていういつものパターンだ。

それで俺がどこに転生したかつて？

それは・・・

「受験番号1番、デュエル場が上がってください」

そう、俺は遊戯王GXの世界に転生したのだ。

何でGXの世界を選んだかは遊戯王シリーズで最も面白かったから
だ。

全話見たので原作知識はばっちりだし正直俺はシンクロあまり好き
じゃないし・・・

ま、いいか。えーと俺の相手は・・・

「これから実技試験を始めるノ〜ネ」

まさかのクロノス教諭。つーかこの人の顔間近で見ると面白すぎる。

「お願いします」

「「決闘」」

「先攻は私なノ〜ネ、ドロ〜」ニヤリ

「私は天使の施しを発動するノ〜ネ。このカードの効果によって私はカードを3枚ドロ〜し、手札からカードを2枚墓地に送るの〜ネ。私は墓地にトロイホースと古代の機械兵士を墓地に送るノ〜ネ」

外野が「クロノス教諭が手札事故？」とか騒ぎ出す。そうか、この世界はまだ墓地アドがそれほど重要視されてなかったのか。

「私は早すぎた埋葬を発動するノ〜ネ。ライフを800ポイント払うこと〜で墓地にいるモンスター1体を特殊召喚しこのカードを装備するノ〜ネ。私はトロイホースを召喚。」

クロノスのフィールドに木製の馬が出現する。

トロイホース ATK1600

「トロイホースは地属性モンスターの生贄に使用する場合2体分の生贄とすることができるノ〜ネ。私はトロイホースを生贄に古代の機械巨人を生贄召喚するノ〜ネ」

トロイホースが光に包まれて消えると同時に巨大なモンスターがフィールドに出てくる。

古代の機械巨人 ATK3000

「これで私はターンエンドなノ〜ネ。」

外野が「終わったな。」とかうるさいが現世では攻撃力3000のモンスターが1ターン目で出てくるのは全然珍しくない。けど特殊召喚できない古代の機械巨人を1ターンで出すのはちょっとすごい

かな。

「さすがクロノス教諭、すごいな。」

「余裕ぶつても無駄なノ〜ネ。サレンダーするなら今のうちなノ〜ネ」

「誰がサレンダーなんてするか。俺のターン、ドロー」

俺は自分の手札を見る。よし、これならいける。

「俺はバイス・ドラゴンを手札から特殊召喚する。このモンスターは相手フィールド上にモンスターが存在し、自分フィールド上にモンスターが存在しない場合に攻撃力と守備力を半分にして手札から特殊召喚できる。そして俺はアックス・ドラゴニートを召喚する。」

バイス・ドラゴン ATK1000

アックス・ドラゴニート ATK2000

爽児のフィールドに2体の竜が並ぶ。

「そして俺は魔法カードドラゴニック・タクティクスを発動。自分フィールド上のドラゴン族モンスター2体を生贄にデッキからレベル8のドラゴン族モンスターを特殊召喚する。来い、ダークエンド・ドラゴン!!!」

2体の竜がフィールドから消え、漆黒の竜がフィールドに舞い降りる。

ダークエンド・ドラゴン ATK2600

「ふん、その程度のモンスターじゃ私の古代の機械巨人の足元にも及ばないノ〜ネ」

「それはどうかな。ダークエンドの効果発動。ダーク・イヴァポレーション!!!」

爽児が合図した途端、古代の機械巨人が闇の中に吸い込まれていく。

「一体どうなってるノーネ!!!?」

「ダークエンドは1ターンに1度攻撃力を500ポイント下げることとで相手のモンスター1体を墓地に送ることができる!!!」

「ナンデス〜トオ〜!?!?」

「そしてもう先生のフィールドにモンスターはいない。ダークエンドでダイレクトアタック、ダーク・フォッグ!!!!」

「パルメザンチ〜ズ!!!」

クロノスLP4000 1900

「さらに俺は速攻魔法表裏一体を発動!俺の場のダークエンド・ドラゴンをデッキに戻し、デッキからライトエンド・ドラゴンを特殊召喚する!!!」

ライトエンド・ドラゴン ATK2600

「ライトエンドで先生にダイレクトアタック！シャイニングサプリーメイション！！！」

「マンマミミア」

クロノスLP19000

「よっしゃあ」

「この私が負けるなどありえないノ〜ネ。」

「すげえあのクロノス教諭に勝った」「それもワンターンキルだぞ」「ライフが1も減ってないのに」「外野が騒ぎ出す。それもそうだろう。デュエルアカデミアの実技最高責任者のクロノス相手にワンターンキルの快拳を成し遂げたのだから。」

「むかつくけどさすがに不合格にするわけにはいけないノ〜ネ。だけれ〜ど文句をつけてドロップアウト寮に入れてやるノ〜ネ。ぐふふふ」

クロノスが卑劣な考えをしている間に1人の男性が拍手をしながら爽児達に近づいてきた。そしてクロノスの顔つきが変わった。

「校長!?!」

「最上級モンスターに立ち向かう勇氣に冷静な判断、大変すばらしいデュエルでした。よって君はもちろん合格です。爽児君はオベリスク・ブルーに配属します。」

「まじっすか。やった〜!!」

「ぐぬぬぬぬ」

そうしてこの長い1日は終わった。

〈余談〉

そのあとクロノスは爽児に負けたイライラを他の受験生にぶつけ容赦なく30人近くの受験生を不合格にしていたが調子に乗って十代と決闘して負けることになった。

V S クロノス（後書き）

第一話どうでしたか？

他の転生物でよく見る

トロイホース 二重召喚 古代の機械巨人

をちょっと工夫してみました。が正直どっちでもいいですね。

次回は爽児が十代とデュエルする話を書きたいと思います。

さようなら〜by千〜

VS十代（前編）（前書き）

こんにちは千です。

前に予告したとおり今回は十代とのデュエルを書きます。
それではどうぞ

V S 十代（前編）

「ガツチャ！楽しいデュエルだったぜ、先生！！」

出番が最初だっただけに爽児は観客席でいろんなデュエルをみていた。

あの状況であのチートじみたドロ―はすごいな。クロノスが俺に負けたときよりいららしてる。

「まあ面白いものが見れたな」

そう思っただけで帰ろうとしたら

「おいそのあんだ」

声が聞こえる方向に振り向くと十代、翔、三沢がこっちに向かって走ってきていた。

「呼んでるのは俺か受験番号110番？」

「ああ、俺は遊城十代」

「僕は丸藤翔っす」

「俺は三沢大地だ。君のデュエルは見させてもらった。」

「そうか。俺は黒鉄爽児だ。」

「聞いたぜ。お前あのクロノス先生に1キルしたんだろ？なあ俺と

デュエルしようぜ」

遅かれ早かれこうなるとは思っていたけどまさか今日あっていきなりとはな。

まあ断る理由もないしいいか。

「いいぜ。俺もお前のHEROデッキを見てみたいしな。」

そういうと二人はデュエルディスクを構えた。

「決闘」

爽児LP4000

十代LP4000

「先攻は貰うぜ。俺のターン、ドロー!!!」

いつも思っただけど先攻後攻って早いもの勝ちで決めるのか？
先攻とれるように練習でもしよっかなあ
ま、いいや集中。

「俺はE・HEROバブルマンを守備表示で召喚するぜ」

E・HEROバブルマンDEF 1200（アニメ効果）

でたよ強欲な泡男。

「俺はバブルマンの効果を発動する。フィールド上に他のカードがない場合にこのモンスターを召喚に成功した場合、デッキからカー

ドを2枚ドローする。」

OCGじゃまったく使えないのにアニメだったらほぼ強欲な壺じゃねーか。しかもこの世界だったら表側守備表示で召喚できるからおさらチートだな。

「俺は手札から融合を発動。フィールドのバブルマンと手札のE・HEROクレイマンを融合！来い、E・HEROマッドボールマンを召喚！！」

E・HEROマッドボールマンDEF 3000

十代のフィールドの球体の戦士が腕を組んで現われる。かの青眼の白龍すら破壊できないまさに鉄壁のモンスターだ。

「俺はカードを2枚伏せ、ターンエンドだ」

「俺のターン、ドロー！俺は手札断殺を発動。お互いのプレイヤーは手札を2枚墓地に送りカードを2枚ドローする。」

爽児と十代はカードを捨て、その枚数分ドローする。

「いきなり手札事故つすかね？」と翔

「いや、爽児のことだ。何か考えがあるはずだ。」と三沢

「俺はバイス・ドラゴンを攻守を半分にして手札から特殊召喚する。そしてバイスドラゴンを生贄にストロング・ウィンド・ドラゴンを召喚する！！」

ストロング・ウィンド・ドラゴン ATK 2400

バイス・ドラゴンが消えて突風が吹き、新たな龍が爽児の場に現われる。

「このモンスターは生贄にささげたモンスターの攻撃力の半分の数値を自身の攻撃力に加算する。」

ストロング・ウィンド・ドラゴン 2400 3400

「マッドボールマンを上回ったッス」

「バトル！ストロング・ウィンド・ドラゴンでE・HEROマッドボールマンを攻撃！ストロングハリケーン！！！」

ストロング・ウィンド・ドラゴンが繰り出した竜巻がマッドボールマンもろとも十代を襲う。

「そしてこのモンスターが相手の守備表示モンスターを戦闘によって破壊したとき攻撃力と守備力の差分の戦闘ダメージ与える。」

「うわぁ！」

十代 LP 4000 3600

「カードを2枚セットしターンエンドだ。」

「へへへ、楽しいぜ爽児。このデュエルすげえ楽しいよ。」

十代が笑顔で爽児に話しかけてきた。

「ああ、俺も楽しいぜ。」

爽児も笑顔で答える。

「こんな楽しいデュエルに負けるわけには行かないな。俺のターン、ドロー……！」

その場にいる全員にそのドローは輝いて見えた。

V S 十代（前編）（後書き）

自分の文才のなさに絶望です。まじで。

それにしてもバブルマンは鬼畜ですね。フィールドにカードがなかったらすぐ2枚ドロウなうえアニメでは表側守備表示でだせますからね。

今回は十代との決着を書くつもりです。

それでは千でした。さようなら

V S 十代（後編）（前書き）

こんにちは千です。

今回は十代とのデュエル決着です。

どうぞお楽しみ下さい

V S 十代（後編）

「俺のターン、ドロー」

十代

LP 3600

手札 3枚

魔法・罾 2枚セット

モンスター なし

爽児

LP 4000

手札 1枚

魔法・罾 2枚セット

モンスター ストロング・ウィンド・ドラゴン ATK 3400

「俺は魔法カード命削りの宝札を発動。カードを5枚ドローし、5ターン後に手札を全て墓地に送る。」

「さらに融合回収を発動。墓地の融合と融合素材として墓地に送られたクレイマンを手札に加える。そして俺は手札に加えた融合を発動するぜ！俺は手札のE・HEROクレイマンとE・HEROスパークマンを融合する。来い、E・HEROサンダー・ジャイアント！！！！」

E・HEROサンダージャイアント ATK 2400

「俺は魔法カードH・ヒートハートを発動。サンダー・ジャイアントの攻撃力を500ポイントアップさせ、貫通効果を与えるぜ」

E・HEROサンダー・ジャイアント ATK 2400 2900

「けどストロング・ウィンド・ドラゴンの攻撃力は3400。攻撃力がまだ足りないッス。」

あつ、そうか。確かサンダー・ジャイアントの初登場はあの偽ラブレター事件だからこいつの効果を知らないのか。

「ああ、確かに攻撃力じゃサンダー・ジャイアントは敵わない。だけど俺はサンダー・ジャイアントの効果を発動！元々の攻撃力がこのモンスターの攻撃力以下のモンスター1体を破壊する。ヴェイパー・スパークー！」

サンダー・ジャイアントが放った雷撃がストロング・ウィンド・ドラゴンを直撃し、破壊する。

「ぐっ・・・」

「そうか、アニメのサンダー・ジャイアントの効果は手札コストなしの強制効果だったな」

「これで爽児、お前の場にモンスターはいない。サンダー・ジャイアントでダイレクトアタック！ボルティック・サンダー！！！」

サンダー・ジャイアントが放った雷が爽児を襲

わなかった。

「残念だったな十代。俺は畏カードガード・ブロックを発動した。俺が受ける戦闘ダメージを0にしてカードを1枚ドロウする。」

「うまい、これで攻撃力の上がったサンダー・ジャイアントの攻撃を防ぎつつアドバンテージを稼いだぞ。」と三沢

「くっそー。通ったと思ったのにな。俺はターンを終了する。」

「俺のターン、ドロウ」

「俺は墓地のミンゲイドラゴンの効果を発動する。」

「墓地からだっ。いつの間に！」

「忘れたのか十代、1ターン目に俺は手札断殺でこのカードを墓地に送つといたんだ。そしてこのモンスターは自分フィールド上にモンスターが存在せず、自分の墓地のモンスターがドラゴン族だけだった場合スタンバイフェイズ時に墓地から特殊召喚できる。だがこの効果で特殊召喚したミンゲイドラゴンはフィールドから離れた場合ゲームから除外されるがな。」

ミンゲイドラゴンDEF 200

翼を広げた首の長い小型の竜が爽児のフィールドに現われる。

「このモンスターはドラゴン族モンスターの生贄とする場合2体分の生贄とすることができる。俺はミンゲイドラゴンを生贄にダーク

エンド・ドラゴンを召喚する！」

ダークエンド・ドラゴン ATK 2600

「ダークエンドの効果を発動！サンダー・ジャイアントは墓地で眠ってもらう。ダーク・イヴァポレイション！」

ダークエンド・ドラゴン ATK 2600 2100

「よし、ダークエンドでダイレクトアタック、ダーク・フォ「させるかよ、俺は罠カードヒーロー見参を発動するぜ。相手モンスターの攻撃宣言時、相手は手札を1枚選ぶ。そのカードがモンスターだった場合そのモンスターを特殊召喚できる。さあ選べ爽児」・・・俺は一番右のカードを選ぶ。」

爽児が指定したカードは・・・

「よっしゃあ、俺はE・HEROエッジマンを特殊召喚するぜ！」

十代のフィールドに黄金の戦士が現われる。

「クソッ、ターンエンドだ。」

「俺のターン、ドロ。バトル、エッジマンでダークエンド・ドラゴンを攻撃、パワーエッジアタック！」

「俺は罠カードドラゴン・エヴォリユーションを発動。フィールドのドラゴン族モンスターを生贄にささげ、そのモンスターのレベル+1のレベルを持つモンスターを手札から特殊召喚する。来いライトエンド・ドラゴン！」

ライトエンド・ドラゴン ATK 2600

「エッジマンと互角か……。だけど俺は攻撃を続ける、パワーエツジアタック！」

「甘い、俺はライトエンドの効果を発動する！このモンスターの攻撃力を500ポイント下げることによって相手モンスターの攻撃力を1500ポイント下げる！ライト・イクспанション！」

ライトエンドドラゴン ATK 2600 2100

E・HEROエッジマン ATK 2600 1100

ライトエンド・ドラゴンが放った光線がエッジマンに直撃しエッジマンを弱体化させた。

「うっ！！」

「向かい打て、シャイニングサプリメイション！」

「うわっ！！」

十代

LP 3600 2600

「カードを1枚セットし、E・HEROフェザーマンを守備表示で召喚しターンエンドだ。」

E・HEROフェザーマン DEF 1000

「俺のターン、ドロ。」

「俺は攻撃の無力化をセットした。このターンは凌いでみせる。」

「俺は墓地のミンゲイドラゴンの効果を発動!!」

「えっ、ミンゲイドラゴンはさっき除外されたんじゃないんすか？」

「翔、誰も俺の墓地にいるミンゲイドラゴンが1体だけなんていてないぞ。」

「まさか手札断殺で2枚のミンゲイドラゴンを墓地に・・・」

「その通りだ三沢、来い、ミンゲイドラゴン！」

ミンゲイドラゴンDEF 200

「俺も命削りの宝札を発動し、カードを5枚ドロする。十代、このデュエル俺の勝ちだ。速攻魔法カード竜の魔眼発動。自分フィールド上のドラゴン族モンスターの数だけ相手の魔法・罠カードを破壊する。」

十代の伏せた攻撃の無力化とアナザー・フュージョンが破壊される。

「そして俺はミンゲイドラゴンを生贄にささげ、俺の最強の切り札、光と闇の竜を召喚する!!」

ミンゲイドラゴンが消えると同時に直視できないほどの眩しく美しい竜がフィールドに舞い降りる。

「すげえ、すげえよ爽児！こんなモンスターを召喚するなんて、お前本当に最高だぜ！」

「ああ、このデュエルはとても楽しかった。が、俺の勝ちだ。ライトエンドでフェザーマンを攻撃、シャイニングサプリーメーション！」

「グッ！」

「これで終わりだ。光と闇の竜でダイレクトアタック、シャイニングブレス！！！！！」

十代

26000

こうして二人のデュエルは爽児の勝利で終わった。

V S 十代（後編）（後書き）

はい、結局爽児の勝ちで終わりました。十代ファンの皆さんゴメンね。

今更ですがライトエンド・ドラゴンとダークエンド・ドラゴンは漫画GXと同じものだと考えてください。あとドラゴン・エヴォリューションや竜の魔眼等漫画カードもバンバン使っていくので、「あれ、こんなカードあったっけ」みたいなことがあつたら未OCGカードWikiで調べてください。作者は基本そこから選んでいます。

あとお気に入り登録してくださった方々本当にありがとうございます。質問、アドバイス等もあつたら遠慮なく言ってください。

次はデュエルアカデミア入学と万丈目に絡まれる話を書きます。

それではさようなら

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0820ba/>

もう一人の英雄

2012年1月4日13時51分発行